

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 異種ドメインユーザの行動予測を可能にするペルソナモデルの転移技術

2. 研究代表者名及び主たる共同研究者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

原 隆浩（大阪大学大学院情報科学研究科 教授）

主たる共同研究者

河口 信夫（名古屋大学未来社会創造機構 教授）

小野 智弘（(株) KDDI 総合研究所 Human-Centered AI 研究所 所長）

3. 事後評価結果

○評点：

A 優れている
---------

○総合評価コメント：

本研究課題のビジョンは「個人情報の保護に関する法令に則してプライバシーを保護しつつ、ビッグデータ解析・AI 技術により異種サービスを跨いだマーケティング施策を可能とする。特に、利用履歴などのデータが少ない新規サービス事業者や新規ユーザに対しても安心かつ快適なサービスの提供を可能とする。」ことにある。

この目標の下で、プライバシーや権益の保護に配慮して、運用時に異種ドメイン間でユーザ ID や生データの交換を必要としない、ペルソナモデルや行動予測モデルの転移利用を可能にした。エリアの特徴をモデル化する手法(Area2Vec)に基づいた実空間のデータ解析は、サイバー空間の行動解析と連携させることにより、消費活動の少ない人の諸活動のモデリングが可能となり、都市計画にも利用できるものである。また、特に ID マッチングやデータ共有を行わないクロスドメイン行動予測技術は今後の産業応用が大いに期待される。

学術貢献に関しては、Web 関連の IEEE、ACM など著名な学術団体に注目を集める論文を多く発表し、さらに国内 5 件、国際 1 件、合計 6 件と多くの特許出願は評価できる。社会貢献に関しては、本 CREST をもとに設立されたペルソナ AI 協議会への他業種からの参加が、目標達成に対する成否を左右するであろう。

全体として、実用性が高い研究成果が得られた。論文発表に留まらず、企業が容易に利用可能なソフトウェアライブラリとしての提供が望まれる。プライバシー保護は、法令遵守が前提でありながら、それを超えるエンドユーザーに対するメリットを提供する応用の検討が必要であろう。ビジョン達成に向けて、広範な企業連携の継続に期待したい。